

NIKKEI

まもなく進学や転職などに伴う春の引っ越しシーズン。最近引っ越し会社が単身者向けを中心にお得なプランをそろえるとともに、利用すると提携先の異業種企業のポイントが付与するなどの新サービスを相次いで打ち出している。引っ越し料金を安くする方法を探った。

「いらなくなった本や家具、洋服などをリサイクルショップで売ったら、5000円ほどになった」。東京都在住の30代の女性はこう話す。引っ越しを機に不用品を処分したところ「荷物がかなり減り、引っ越し代を節約できた」という。

不用品の処分は引っ越し時の有効な節約術だ。総合情報サイト「オールアバウト」で引っ越しガイドを務める森真奈美さんも「引っ越し時の節約の基本は荷物を減らすこと」と指摘する。不用品を事前に処分すれば引っ越しの荷物や作業を減らせ、引っ越し先で処分する手間も省けるからだ。

こうした事前処分のほか、引っ越し料金を安くするコツは「お得なプランの選択」「時期・曜日・時間の手順決定」「見積もりの活用」の3つだ。

大手引っ越し各社は様々なお得プランを用意するとともに、プランごとに利用できる割引サービスをそろえている(表)。例えば日本通運など3社は荷物が少ない単身者向けのお得プランとして、荷物を専用ボックスにまとめて運ぶサービスを展開。利用者の多い東京・大阪間の場合、単身者の引っ越し料金の目安は7

引っ越し代を安くする方法

大手引っ越し各社の主なお得な料金プラン、割引制度、もらえるポイント

社名	プラン名	概要	プランに適用できる主な割引制度	利用するともらえる主なポイント
日本通運	単身パック	単身者向け。約1.2または1.9立方メートルの専用ボックスで輸送。ボックスの大きさや数、移動先などに応じて一律に料金が決まる	・インターネット経由の申し込み→2100円引き ・ボックスが2基以上→1基あたり1050円引き	・ゴールドポイント(ヨドバシカメラ) →さらに作業人件費と資材費を10~20%引き ・マイレージ(ANA, JAL) ・メトロポイント(東京地下鉄)※
	ワンルームパック	単身者向け。2トントラック1台分が荷物量のため。移動距離が30km以内で作業時間4時間以内が対象		
ヤマトホームコンビニエンス	単身引越サービス	単身者向け。約1.8立方メートルの専用ボックスで輸送。ボックスの数や移動先などに応じて一律に料金が決まる	・WEB割引(インターネット経由で申し込み)→2100円引き ・複数BOX割引(ボックスが2基以上)→1基あたり1050円引き	・マイレージ(みずほ銀行)※
	引越らくらくタイムリーサービス	引っ越しする荷物の体積と移動距離に応じて料金が決まる。大型家具や家電製品以外の荷造り、荷ほどきなどは別料金	・「おまかせフリー割引」(荷物量が3トントラック1台分以内で移動距離が50km以内、利用者が希望する5日間のどこかで搬出・搬入)→最大で半額	・マイレージ(ANA, JAL) ・マイレージ(みずほ銀行)※
アートコーポレーション(アート引越センター)	基本パック	大型家具や家電製品以外の荷造り、荷ほどきを利用者が行う	・「引越e割」(インターネットを利用した見積もり)→10%引き	・マイレージ(ANA, JAL) ・Tカード(CCC)
サカイ引越センター	せつやくコース	大型家具や家電製品以外の荷造り、荷ほどきを利用者が行う		・マイレージ(ANA, JAL) ・ドコモポイント(NTTドコモ) ・ヤマダポイント(ヤマダ電機)
	ご一纏めコース	同一地方に引っ越しする複数の人の荷物をまとめて輸送。日時が指定出来なかったり、利用できない場合もある		
全国引越専門協同組合連合会(ハトのマークの引越センター)	小鳩パック	単身者向け。片道200km超が対象。約1.5立方メートルの専用ボックスで輸送。ボックスの数や移動先などに応じて一律に料金が決まる	・ボックス2基以上使用→2基目分から1050円引き	-
引越社	経済パック	大型家具や家電製品以外の荷造り、荷ほどきを利用者が行う		・マイレージ(ANA, JAL)

(注1) ポイントをもらうには申込時に会員カードの提示などが必要。※は会員カードのクレジット機能での支払いが条件
(注2) ポイント付与や割引は繁忙期やプラン内容によって適用されない場合がある

「午後便」「混載便」が狙い目

万々8万円だが、このプランではボックス1基当たり3万円未満です。これにインターネットで予約したり、複数のボックスを利用したりするとさらに安くなる割引制度が付いている。引っ越し料金は移動距離や荷物の量、作業時間のほか、時期によって決まる。例年3月中旬から1カ月間の繁忙期に引っ越すと高くつくほか、土日や祝日も割高になる。時間に余裕のある人は早めに見積もりを済ませれば、割高な時期を避けられる。余裕を持って準

備すれば、資材の用意や荷造りなども自分ででき、その分割安になる。料金は作業する時間帯によっても差が付く。引っ越しはその日のうちに終わるよう午前中から作業する場合は多い。だが、午後から始める「午後便」や、引っ越し会社の都合に合わせる「フリー便」、同じ地域に引っ越す複数の利用者の荷物を1台のトラックにまとめて「混載便」を利用すれば割安になる。東京・大阪間の4人家族の料金は通常20万円以上だが、フリー便

や混載便を利用すれば最大で半額になる場合もある。引っ越し会社を決める際に複数社から見積もり(相見積もり)をとるのも節約の基本。競争原理が働いて値引きに応じてくれる可能性もある。ただ「相見積もりは多くても3~4社で十分」との声が多い。社数それ以上増やしても担当者とのやりとりで時間や手間がかかる割に、価格差がそれほど付かないからだ。

もらえるサービスも増えている。日本通運は2009年12月から、ヨドバシカメラを通じて申し込んだ場合に、代金の7%分のヨドバシのポイントが付与されるとともに、料金を10~20%割り引く。サカイ引越センターは、三菱商事子会社が運営する共通ポイントサービス「Ponta(ポんた)」に3月から参加する。こうしたポイントのほかで活用すれば、実質的な引っ越し料金の割引になる。(藤井良憲)